

2024年度 大谷大学自己点検・評価報告書（チェックシート）

基準9 社会連携・社会貢献

評価項目①	社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施していること。また、教育研究成果を適切に社会に還元していること。				
	視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》
			前年度	当年度	
評価の視点1	社会連携・社会貢献に関する方針のもと、学外機関、地域社会等との連携、大学が生み出す知識、技術等を社会に還元する取り組みを行っているか。	○	○	■社会連携・社会貢献に関する方針（資料24-9-1-1）に基づき、取組を推進している（資料24-9-1-2～3【ウェブ】）。 ■地域連携室は「地域連携プロジェクト」の継続的な支援に加え、2024年度に新規事業として「学生チャレンジ企画『地域に寄りそうプロジェクト』（通称「ちいプロ」）」を実施した（資料24-9-1-2【ウェブ】）。 ■生涯学習講座をはじめとするエクステンション事業は、本学の教育研究成果を社会へ還元するという役割を担いながら、生涯学習の機会を提供している。2023年度に試行的に実施したりカレント教育講座は、2024年度に講座数及びテーマを増やし、計4講座（計5回）実施した（資料24-9-1-3【ウェブ】）。 ■海外の大学・研究機関と学術交流協定を結び、研究交流や学生交流を行っている。2024年度は、3月にエトヴェシ・ロラード大学（ハンガリー）の要請に基づき、本学教員を講師として派遣し、集中講義「日本仏教講義」を開講した（資料24-9-1-4【ウェブ】、資料24-9-1-5～6）。	
評価の視点2	社会連携・社会貢献に関する取り組みにより、地域や社会の課題解決等に貢献し、大学の存在価値を高めることにつながっているか。	○	○	■地域連携室は、2015年度開室以来、各地域連携プロジェクト及び地域連携室の事業を通して地域や社会の課題解決に貢献している。各種の取組を入学センターと協働して積極的にプレスリリースを行った結果、報道機関等から取材を受ける機会も増え、大学の知名度向上に寄与している（資料24-9-2-1～4）。 ■図書館の一般公開（登録制）、博物館の一般公開によって、社会教育（生涯学習）施設として地域課題に貢献し、大学の知名度向上に寄与している（資料24-9-2-5～6【ウェブ】）。	

評価項目②		社会連携・社会貢献活動の状況を定期的に点検・評価し、改善・向上に向けて取り組んでいること。			
視点	内容	点検結果		当年度の評価項目に対する実施状況／前年度からの変更／その他特記事項 《箇条書きで記入／適宜、根拠資料を用いて説明》	
		前年度	当年度		
評価の視点1	社会連携・社会貢献に関わる事項を定期的に点検・評価し、当該事項における現状や成果が上がっている取り組み及び課題を適切に把握しているか。	○	○	■ 地域連携プロジェクト及び地域連携室の事業については、「地域連携室運営会議」・「地域連携室員会議」にて定期的に点検・評価を実施している（資料24-9-3-1～3）。 ■ エクステンション事業については、「生涯学習推進委員会」にて定期的に点検・評価を実施している（資料24-9-3-4～7）。 ■ 国際交流事業については、「学術交流委員会」にて定期的に点検・評価を実施している（資料24-9-3-8）。	
評価の視点2	点検・評価の結果を活用して、社会連携・社会貢献に関わる事項の改善・向上に取り組み、効果的な取り組みへとつなげているか。	○	○	■ エクステンション事業では、生涯学習講座の最終回で実施する受講者アンケートの結果を「生涯学習推進委員会」で共有し、次回以降の開講テーマ設定や新規受講層の獲得に向けた検討に活用している（資料24-9-3-5、資料24-9-4-1～2）。また、実習懇談会参加者や教育学部卒業生を対象としたリカレント教育に関わるアンケートを実施した（資料24-9-4-3～4）。この結果を「生涯学習推進委員会」で共有・分析し、次回以降の開講テーマ設定や新規受講層の獲得に向けた検討に活用している（資料24-9-3-7、資料24-9-4-2）。	

1) 長所・特色（あれば） ※成果を含む

No	自己点検・評価結果（長所・特色）			
1	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	内容	■「学生チャレンジ企画『地域に寄りそうプロジェクト』（通称「ちいプロ」）」は、学生（グループ）が主体となって企画立案し、地域の人たちと共に学び合い、育ち合うことで地域連携にチャレンジする取組を支援するプロジェクトである（助成金：最大10万円/1団体）。2024年度に採択された8グループは、学内外で活発に活動し、地域の方々のニーズに応じている（資料24-9-1-2【ウェブ】）。		
	さらなる発展方策（あれば）	採択（助成金の支給）は1年限り（単年度）であるが、採択グループが次年度以降も取組を継続・発展させたいとの希望があれば、地域連携室が自走支援を行う（外部資金獲得に向けた助言など）。		
2	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	内容	■生涯学習講座は、これまで対面講座とオンデマンド講座（録画配信）の受講生を別々に募集していたが、2024年度からは受講生への便宜を図るため、同一料金にて対面講座とオンデマンド講座の両方を受講可能とした。これにより、これまで対面講座のみ受講していたリピーターがオンデマンド講座を復習のために視聴するなど、より理解を深める一助となっている（資料24-9-1-3【ウェブ】）。		
	さらなる発展方策（あれば）	■特になし		

2) 問題点・課題（あれば）

No	自己点検・評価結果（課題）			
1	点検項目	基準9	評価項目①	評価の視点1
	対応組織	地域連携室		
	内容	■ちいプロのような全学的な活動が開始し、また、行政の企画と連動する活動が増加するなかで、人的・経済的リソースの調整が困難になりつつある。今後、地域連携室の活動を全学的に拡大する方針を推進し、さらに行政との連携促進、及び外部資金獲得の方針を維持するならば、専門的スタッフの獲得等、サポート体制の充実が必要になると思われる。		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☒ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他（ ）		
2	点検項目			
	対応組織			
	内容	■特になし		
	改善計画・方策			
	全学的な措置	☐ 担当組織で改善可能 / ☐ 大学運営会議で全学的な調整が必要 / ☐ その他（ ）		